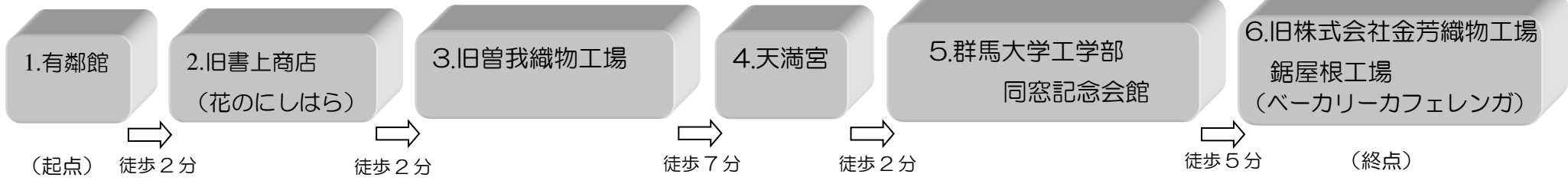


# まち歩きモデルコース

重伝建地区内の建造物は、個人等が所有・管理し、生活をしている場所です。  
個人の敷地には無断で入らず、写真撮影等は許可を得てから撮影してください。  
マナーを守って楽しい散歩をお願いします。

\*モデルコース\* ※歩行距離：約 1.3 km ※所要時間：徒歩 約 1 時間 30 分



【国指定重要文化財】  
てんまんぐう  
**4.天満宮**  
安永7年(1778)～寛政5年(1793)建築  
天正19年(1591)、桐生新町創設にあたり下久方村梅原(現在の桐生市梅田町1丁目)より現在地に移されたと伝えられる。  
社殿は江戸時代の神殿建築に多い権現造り、本殿と幣殿の外壁には美しい彩の彫刻が施されている。この彫刻は黒保根村(現在の桐生市黒保根町)出身、関口文次郎の作で、完成までに15年を要した。  
本殿後方の「末社春日社本殿」は一間社流造、銅板葺きで彫刻の特徴から室町時代後期のものと推定される。市内最古の建物である。

【国登録有形文化財】  
きゅうそがおりものこうじょう  
**3.旧曾我織物工場**  
大正11年(1922)建築  
大谷石造りのノコギリ屋根工場。  
内部は木造、屋根には排気塔が立ち、通風用の丸窓飾りが特徴。  
屋根の北西方向に採光面を設けることで、一日中一定の明るさが得られることから、織物の生地を点検するのに適していた。  
ノコギリ屋根工場は、現在イベントなどで活用されている。

きゅうかきあげしょうてん  
**2.旧書上商店(花のにしはら)**  
明治期建築  
桐生を代表する買継商、書上文左衛門の商店店舗。  
旧書上商店は、3代文左衛門の時、買継商として店を構え発展。  
11代文左衛門の時(明治期)、横浜へ支店をつくり織物輸出業を開始、さらに上海へも出店。当時「関東織物買継王」とも称された。  
12代文左衛門の時、店員は100人を超え、繁盛をなし、戦後まで営業を続けた。  
旧店舗は現在花屋さんとなっている。

【国登録有形文化財】  
ぐんまだいがくこうがくぶ  
**5.群馬大学工学部同窓記念会館**  
どうそうきねんかいかん  
大正5年(1916)建築  
この建物は、当初桐生高等染織学校として創設されたものである。  
その後、昭和24年、学制改革により「群馬大学工学部」となり、昭和47年、校舎新築に伴い、講堂及び正面玄関の一部を敷地中央より現在地に移築、同窓記念会館として活用されている。  
木造2階建て瓦葺き、デザインは中世西ヨーロッパの教会堂に用いられたゴシック式、2階吹き抜けの大空間を支える為、「ハンマービーム」と呼ばれる屋根構造になっている。土台はレンガ積み、外壁は下見板張りのペイント塗りである。

【国登録有形文化財】  
きゅうかふしきがいしゃかなよしおりのもの  
**6.旧株式会社金芳織物工場鋸屋根工場(ペーカリーカフェレンガ)**  
こうじょうのこぎりやね こうじょう  
大正8年(1919)建築  
桐生で唯一のレンガ造りのノコギリ屋根工場。煉瓦は深谷市の日本煉瓦製、イギリス積み。  
隣接する事務所棟は、昭和6年建築。木造2階建てスクラッチタイル貼り、窓や細部に昭和初期の洋風建築の特徴が見られる。  
建物2つを比較してみると大正・昭和各時代の流行の違いがよくわかる。  
レンガ工場内部は改装され、平成20年4月からパン屋さんとして活用されている。

【市指定重要文化財】  
ゆうりんかん きゅうやのくらぐん  
**1.有鄰館(旧矢野蔵群)**  
江戸～大正期建築  
酒・味噌・醤油などの醸造が行われていた11棟の蔵群。  
なかでも煉瓦蔵は市内最大のものである。  
この蔵群は平成6年矢野商店さんから桐生市に寄付され、その後改修整備が行われ、平成9年4月より、多目的イベントスペースとして活用されている。  
敷地奥の「からくり人形芝居館」では機織り機の技を活かした「からくり人形芝居」が毎月第1・第3土曜日に行われている。

桐生市立北小学校

案内板